

女子リーグ「クイーン・リーグ (Qリーグ)」、中学生リーグ「ニュー・エイジ・リーグ (Nリーグ)」

## 2022-2023 シーズン第 12 戦：大磯クリテリウム第 5 戦・詳細レースレポート

2月19日(日)、神奈川県の大磯プリンスホテル特設クリテリウムコースにて「大磯クリテリウム第5戦」が開催された。



©K.kazuma

photo:K.kazuma

今シーズン2022-2023で開催10周年を迎えたこの大会は株式会社ウォークライドの主催で大磯プリンスホテルの敷地内に特設した約1kmの周回コース設定。当日の天気予報では強風とともに昼ごろは雨。朝から会場は風が強かったものの、周回数やスケジュールを調整してのレース開催となった。

大磯クリテリウムでは第1戦と第2戦、そして今大会の第5戦がリーグシリーズ戦である。それぞれ対象クラスはQリーグが「女子スポーツ」、Nリーグ中学生男子Nは「中学生男子」、そしてNリーグ中学生女子NWは新設クラス「女子age10-15」に設定。今回もそれぞれのレースでリーグポイント獲得のため熱いレース展開が繰り広げられた。

風が強いなか、雨も降りだした11時50分。Nリーグ中学生女子NW対象レースとなっている新設クラス「女子age10-15」が、マトリックスのサイクルロードレース協会東日本とウォークライドが小学生選手の強化と普及を狙いタッグを組み運営している「小学生チャンピオン」クラスと同時スタート。



photo:gg\_kasai

今回はリーグシリーズ戦の後半からNリーグに登録、前戦の「大磯クリテリウム第2戦」で健闘しトップポイントを獲得した西山 千智（High Ambition）が出場。「集団での走り方が、まだよく判らないし、雨も風も強くて難しかった」というが、今大会でもリーグトップポイント 28P を獲得し、総合ポイントリーダーの座も見えてきた。最終戦にも意欲を見せる彼女の走りに期待をしたい。



NリーグNWで現在ポイントランキング2位につける西山の力強い走り（photo:gg\_kasai）

新設された「女子 age10-15」クラスは女子の10歳から15歳まで、ちょうど小学5年ぐらいから中学生までが男子と一緒にのクラスだと男子のスピードに敵わない状況が多かったためにセパレートしたクラス。初設定でまだ認知が浸透しておらず今回は参戦が1人と寂しかったが、大会主催であるウォークライドの山根 理史代表は「女子の参加を増やしたいと考えているので、この女子 age10-15 のようなクラス分けでレース参戦のハードルを下げたい」と語る。「特にキッズやジュニアは男女ともに将来を繋ぐう

えで、とても重要な人材。来シーズンも参加しやすい仕組みを、QNリーグとともに考えて実施したい」とコメントしてくれた。



大磯クリテリウム主催ウォークライド代表の山根氏はアイデア豊富（写真・左）。  
今後もQNリーグと連携しながら女子やジュニア層の拡大を図りたいとコメント（photo: k.kazuma）

この後が12時過ぎのスタート、周回数は7周に変更となったNリーグ中学生男子Nの対象レース「中学生男子」。今回は28名のエントリーでNリーグからは前戦でポイントリーダーとなった宇田川 瀬那（スミダ・エイダイ・パールイズミ・ラバネロ）、そしてランキング3位につける稲葉 恵人が新しくチーム「TEAM BFY Racing」に加入。同じタイミングで稲葉とチームメイトになった井上 湧心もランキング5位につけており、リーダーの座を僅差のポイントで狙う面々がスタートラインに出そろった。



中学生男子クラスのスタート前。和気あいあいとした雰囲気だが、レースでは真剣勝負。  
Nリーグ活動を通じて、良きライバルや仲間が出来たという声は多い（photo: k.kazuma）

先ほどのレースから更に一層強くなった雨と風のなか、いつもより長めにローリング走行をおこない状況を見つつ正式スタート。天候が悪いため、しばらくは集団が1つになったままの膠着状態となったが、残り4周回から集団から単独アタックを試みる選手が出てくる。まずは上遠野 蒼大（TEAM BFY Racing）、続いての周回は井上、更に次の周回は稲葉と同じチームが集団を飛び出してレースを活性化させようと動き、ペースを上げていく。そのため集団からは周回ごとに選手が減らされていき、最終周回では17人までに減ってゴール前の長い直線スプリントへ入る。



チームメイトの動きに刺激を受け、集団の先頭を走る稲葉 (photo: k.kazuma)

通称「小田原コーナー」を立ち上がってから、この日の風向きの影響で強烈な追い風となったゴール前の長いホームストレート。最初に抜け出したのは田中 志門 (カンピオーネ)。少しずつ後続を離して優勝を決めた。その田中を追う後続集団からは4人が抜け出し、Nリーグ登録勢では安藤 友識 (スミダ・エイダイ・パールイズミ・ラバネロ) がレースで4位、稲葉が5位に。このため稲葉がリーグポイント 20 ポイントを積み上げてランキング 2 位に上がり最終戦を迎えることになった。



ゴールスプリントで着実に力をつけている安藤 (写真・右) が差し込んでレース 4 位、稲葉も続いて 5 位に入り、Nリーグのポイントランキング 2 位に浮上 (photo: k.kazuma)

稲葉はゴール後「今年に入ってから TEAM BFY Racing というチームに加入して、チームで練習したりレースと一緒に動けるようになって、とても良くなったと思います。ランキングが2位に上がったので、来月のレースでは勝って年間リーダー獲得を狙います！」と力強くコメント。



ゴール後に安堵の表情で次戦への抱負を語る稲葉（左写真）



今レースでは悔しい結果となった宇田川は次戦でのリベンジを誓った（右写真、中央が宇田川）  
(photo:K.kazuma)

一方でレースでは稲葉に続く6位となるも、ランキングポイント15ポイントを獲得しポイントリーダーとバトルマリンジャージを守った宇田川は「雨風の強いコンディションでのレースは初めてだったので、積極的な走りが出来なかったのが悔しい。次回の最終戦は積極的な走りでレースに勝ったうえでバトルマリンジャージを防衛したい」と熱い抱負をコメントした。



大磯クリテリウム表彰式内でおこなわれたNリーグ・ポイントリーダー授与式で、バトルマリンジャージを守った宇田川。コメントは動画で是非ご覧いただきたい (photo:K.kazuma)

※インタビュー動画はこちら <https://youtu.be/b40MgYNEcBQ>

現在、ランキング3位は工藤 健太（ブラウ・ブリッツェン）で合計148ポイント、続いて4位が宮崎 博己（チームBMレーシング）で128ポイント、5位に井上 湧心が今日の結果で111ポイントと積み上げ、Nリーグも最終戦でのポイントリーダー争いが益々目が離せない展開となっている。

午後1時から高校生以上女子のQリーグ対象レースの「女子スポーツ」。こちらはローリングを含めて12周に変更となり、レースは13名の出走でスタート。Qリーグ登録の根本 香織 (Team 一匹狼)、そして現Qリーグ・ポイントリーダーの岡本 彩那 (ブラウ・ブリッツェン) を含む集団は、強風で長くなったローリングの間、お互いをけん制。



単独アタックを決めて、そのままゴールまで踏み切った阿部 (右写真) は圧巻の走りを見せた  
(photo:gg\_kasai)

しかしローリング解除から次の周回で、先日のシクロクロス東京で6位という好成績を見せた阿部 花梨 (High Ambition) が、このロードレースでも快走し単独でアタック！そのまま周回を重ねるごとに後続集団とのタイム差を重ねていき、単独ゴールで優勝を決めた。



集団での動きを図る岡本 (写真右から2人目) : photo:gg\_kasai

そんな阿部を追う集団は膠着状態が続き、誰も先頭を逃げる阿部にブリッジをかける選手が出ない。ゴール後に岡本から当時の集団の動きを聞くと「風が強くてコントロールが難しかったこともあって、誰からも追う動きが出なかった。出来れば自分も追いかけたかったが、阿部選手の強さを知っていたので怖くて動けなかった」とコメント。



最後の力を振り絞ってゴールスプリント、見事に集団の頭を取った岡本 (photo:gg\_kasai)

しかしアメジストジャージを着る岡本としては「そのままでは終われないと思った」と言う。「何としても最後のゴールスプリントは取りたかった」という岡本は小田原コーナーを立ち上がったタイミングから上手に位置を付けて、最後は7人まで絞られた集団の頭を取りレース2位となった。このため岡本は合計183ポイントでリーダーの座を防衛し、ランキング2位には、レース7位の根本が164ポイントでつける状況となった。



ゴール後にリーグ登録選手が集合！左よりNリーグNWながら格上の女子スポーツに参戦した篠塚萌依（AVENTURA VICTORIA RACING）、ポイントリーダーを守った岡本、ランキング2位の根本 (photo:K.kazuma)

※岡本のリーダー防衛コメント動画はこちら <https://youtu.be/-vqylZ8xPEs>

この日は激しい天候のため、午前開催の各レース表彰式においてNリーグのポイントリーダー授与式は実施したが、Qリーグポイントリーダー授与式は別途、屋内でおこなった。レースは全ておこなわれ、悪天候を吹き飛ばす熱い闘いで会場は盛り上がった。



豪華副賞を手に最終戦にむけて、一層気合の入った宇田川 (photo:K.kazuma)

今大会のポイントリーダー授与式においても、QNリーグ・各ポイントリーダー賞として「アメジストジャージ」「バトルマリンジャージ」の各リーダージャージご提供は Bioracer 様、副賞ご提供は武田レックウェア株式会社様、株式会社 隼、アイリス株式会社様、そしてリーグ登録選手全員に試供品を株式会社アミックグループ様からご提供いただいている。改めて厚く御礼申し上げます。



終始、激しい雨風の厳しいコンディションのなか、果敢に戦った参加選手達 (photo:gg\_kasai)





Nリーグ対象「中学生男子」(写真上)、そしてQリーグ対象「女子スポーツ」で戦った選手達(写真下)  
レースを通して自転車仲間を増やせるリーグ活動を、これからも続けていきたい (photo:K.kazuma)

シリーズ最終戦・2023年3月5日(日)：<https://shimofusa-criterium.powertag.jp/>

しもふさクリテリウム MATIRX ヒヤリハンター杯3月(チャレンジリーグ主催)

※来年度2023-2024シーズンのQNリーグ登録要項や対象レーススケジュールは3月中旬に発表予定。

<http://www.jbrain.or.jp/q-n-league/>

<レポート概要>

写真撮影：gg\_kasai、k.kazuma

テキスト：須藤むつみ(QNリーグ事務局) 協力：株式会社ウォークライド